

緑豊かでゆとりと潤いのある快適な環境と美しい景観の創造をめざして



日造協ニュース

Japan Landscape Contractors Association NEWS

発行：一般社団法人日本造園建設業協会 編集：広報活動部会 <http://www.jalc.or.jp>
 〒113-0033 東京都文京区本郷3-15-2 本郷二村ビル4階 TEL:03-5684-0011 FAX:03-5684-0012

2014.9月号

通巻 第486号

- 本号の主な内容
 2面 【特集】日造協・事業委員会の取り組みについて
 3面 【【学会の目・眼・芽】
 (公社)日本造園学会編集委員会幹事・東京農業大学短期大学部 下嶋 聖
 『日造協ニュース』に関するアンケート結果について
 4面 【ふるさと自慢】福島県 寄らんしょ、来らんしょ、まわらんしょ
 中嶋 都(福島県支部事務局長)
 【緑滴】経験や感性を表現したい 坂口 加奈子(天龍造園建設株)

日造協会員の方々への「日造協ニュース」は偶数月がPDF版の配信で、印刷物の発送は行っていません。会員の方々へのメールニュースへの添付、日造協ホームページに掲載をしていますので、ご活用ください。

平成27年度 概算要求 364億円に 都市公園ストックの再編などを推進

国土交通省の平成27年度概算要求は、対前年度比1.16倍の6兆6,870億円となった。都市局関係は事業費2,647億円で、対前年度比1.18倍(国費660億円、1.17倍)で、国営公園等が事業費364億円、1.15倍(国費323億円、1.16倍)、都市環境整備が事業費2,153億円、1.19倍(国費273億円、1.16倍)となった。

概算要求は、明日香村歴史的風土創造的活用事業交付金など「緑地環境の保全等の対策に必要な経費」1億6千万円、みどりの防災・減災対策推進事業や公園施設の安全点検等に係る制度の検討調査など「住宅・市街地の防災性の向上に必要な経費」8億円、集約促進景観・歴史的風致形成推進事業など「景観に優れた国土・観光地づくりの推進に必要な経費」13億円、歴史的風致活用国際観光支援事業、コンパクトシティ形成支援事業など「都市・地域づくりの推進に必要な経費」58億円等を計上。

主な新規・拡充要求では、復興と国土強靭化に資する都市の防災・減災・老朽化対策では、「復興まちづくりの推進」で市街地整備を着実に推進。「密集市街地の早期改善」で避難路・避難地の確保や建築物の不燃化を子育て支援施設や生活支援機能などの整備と合わ

せて推進。「都市公園における防災拠点機能等の強化及び老朽化対策の推進」で防災拠点・避難地等となる都市公園の確保や機能の強化や公園利用者の安全確保を図るために、公園施設長寿命化計画等に基づく公園施設の計画的かつ戦略的な維持管理・更新等の老朽化対策を推進する。

人口減少社会における個性あふれる地

都市公園ストックの再編イメージ

方の創生では、「都市機能等の立地適正化による地位の活性化」で広域連携型コンパクトシティによる地域の活性化、都市機能を誘導するエリアにおける市街地更新の促進、居住を誘導するエリアにおける居住環境の向上、地域の子育て支援等に対応した都市公園ストックの再編などを進め、都市緑化やバリアフリーなど



2014/10/1-7 準備期間 9/1-30 全国労働衛生週間

全国労働衛生週間は、厚生労働省、中央労働災害防止協会が主唱し、各事業場が働く人の健康の確保・増進を図り、快適に働くことができる職場づくりに取り組む週間で、昭和25年に第1回が実施されて以来、今年で第65回を迎える。この週間の実効を上げるために、9月1日から9月30日までを準備期間とし、10月1日から10月7日まで実施されます。

今年は「みんなで進める職場の改善心とからだの健康管理」をスローガンに週間を展開し、各事業場における労働衛生意識の高揚を図り、自主的な労働衛生管理活動の一層の促進が求められています。



日造協理事、株井内屋種苗園 専務取締役
井内 優



樹林 造園界の高齢化と造園産業発展への懸念

大企業の造園業者は別として、中小・零細な造園業者においては、現場の担い手となる新人の確保が難しいと長く言われて久しいのが現状ですが、将来への技術の継承、本当にスコップを持ったり、樹木への支柱の取付等、単純作業による作業勘を養うことが出来ず、現場に見合った作業量を的確にだせなかつたり、職人としての心意気がなくサラリーマン化していることに危惧しています。

大学、専門学校、農業高校、教授、教員とも造園の専門知識、CADの勉強は教えていただけるが、現場での穴掘り、樹木の掘取時の鉢径の勘、超高木の荷上げ、積込み等、まったく現場の作業についての勉強がなされていない現実、60才前後の職人がこの先定年を迎えてしまうとまったく出来なくなってしまうのではと悩んでいるのは私一人なんでしょうか?

単純労働は将来外国からの人々に任せればと考える人もいるだろうが、職人しか出来ない作業を継承するには、大学、専門学校、高校で最低限の現場を学んでおく必要があると思う。産・官・学が真剣に取り組んでほしい。

それともう一点、我々が造園業を営む上で最も重要なパートナーとしての植木の生産者も高齢化しているのが現状です。

昭和50年代は、製紙業界、商社、異業種の企業が参入して日本全国至るところで植木の生産が行われていましたが、景気の状況に合わせて徐々に縮小して、現在は最盛期の50分の1ぐらいまで生産が落ち込んでしまった。樹木の調達に苦労しているのが現状です。

生産が落ち込んだ原因は、植栽面積の縮小により生産面積も少なくなったのはもちろんですが、景気の低迷により造園業者の安値受注をするそのしわ寄せを生産者に持っていくことにより、生産意欲を削がれてしまっているのが現状です。

種もしくは挿し木をして数年から十数年に渡り、土地代、除草、施肥、剪定と自身の子供のように育てたものが買いたたかれてしまうことでは跡を絶ぐ人がなくなるのも理解できます。

私達、日造協の会員の皆様、現在置かれている現状をよく理解して適正な価格で生産者を保護していかないと1年や2年で植木はできません。

また、サラリーマンとしてよりも長時間、畑にいなきやいけないけど少しは収入いいからUターンして生産でもしようかと思う若者を育てていかなければいけない現状も理解していただきたい。

品確法運用指針に 日造協から意見提出

日造協は、国土交通省が提示した改正公共工事品質確保促進法(品確法)に基づく、発注関係事務の運用指針骨子イメージ案に対して、意見等を提出した。

意見等は、「工事の性格等に応じた工事の入札契約方式の選択」や「現場条件等を踏まえた、適切な設計書、図面、仕様書の作成」について、造園工事の工事目的物の特性に応じた複数年契約方式等に関する記載や造園工事の特性に応じ、施工現場の地域性・自然環境条件・使用資材等を反映した設計図書の作成による施工条件・施工内容の詳細な明示や品質管理基準の明示についての記載を求めるなど、造園工事の特性への対応を希求。

このほか、「発注や工事施工時期の平準化」について、植栽工事の特性を考慮した季節、地域、施工条件等に応じた適切な発注時期・工期の設定についての記載を求めるなど、運用指針の13項目について、造園工事の特性などを踏まえ、意見とともにその理由を明示して提出了。

法定福利費の内訳を明示した標準見積書の活用により、法定福利費の確保を図りましょう！



特集 日造協・事業委員会の取り組みについて

事業委員会

委員長 正本 大



役員改選期にあたる本年、事業委員会は新体制の元、取組を進めて参ります。去る8月8日、第一回目にあたる事業委員会を開催いたしました。

そこでは、4部会を中心進めている事業に対する相互理解、意見交換を中心として会を進めました。本委員会では、造園フェスティバル推進部会、人材育成部会、要望・提言活動部会、事業企画部会の4部会を構成活動しております。

◆
造園フェスティバル推進部会は、緑の大切さの普及や造園界のPR等を目的として、10月を基軸に全国で様々なイベ

ント等を開催してもらう企画の取りまとめをしています。本取組が始められ10年が経過する中で、新たなスパイスを加えていけるよう検討を進めていきます。

◆
人材育成部会は、「造園デザインコンクール」(通称: デザコン) 及び地域リーダーズの企画・運営・支援、職長教育の促進企画を中心に活動しています。

デザコンは、ランドスケープコンサルタンツ協会、全国高等学校造園教育研究協議会との共催で、若手造園人やこれから造園分野に進もうとする学生・生徒のデザイン・設計技術の向上を図るために実施し、平成25年度で40周年を迎えた。造園への情熱を持った若手が一人でも多く業界に入ってくれるような取組を加えていくよう進めて参ります。

また、全国の造園建設業の若手経営者、後継者、経営幹部候補者の集まりである地域リーダーズの活動(年2回)を支援しております。総会・技術フォーラムで

の発表等のみならず、広く交流が進み、やる気と元気を持った次世代育成の場としての活性化を期待しています。

職長教育の促進では、今年度より講習会を順次開催して行きます。

◆
要望・提言活動部会は、国交省等の機関に対して、制度改正や発注拡大、日造協の資格制度の活用、業界での隘路解消策等の要望・提言活動を行っています。これまで以上に本部・総支部・支部が連携し、組織的・定期的に展開していくよう努めてまいります。

◆
事業企画部会は、事業委員会で取り組む施策等の起案・提案を中心活動します。また、国が行う叙勲・褒章、国土交通大臣表彰、都市緑化及び都市公園整備・保全美化運動における都市緑化功労者国土交通大臣表彰、優秀施工者国土交通大臣顕彰等の候補者の推薦などを行っております。

事業委員会委員			
区分	氏名	会社名	支部
委員長	正本 大	みずえ緑地(株)	広島
副委員長	風間 啓秀	日産緑化(株)	東京
〃	鈴木 一彦	(株)東松園	千葉
〃	内山 剛敏	内山緑地建設(株)	福岡
〃	四宮 繁	(株)四宮造園	北海道
〃	稻富 俊広	(有)稻富造園	徳島
〃	米内 吉榮	(株)米内造園	岩手
委員	諸井 道雄	(株)諸井緑樹園	福島
〃	山㟢 信幸	(株)長遊園	長野
〃	丸山 晶己	北越農事(株)	新潟
〃	内山 晴芳	天龍造園建設(株)	静岡
〃	大原 優	キンキ緑地建設(株)	大阪
〃	藤本 篤靖	(株)下関植木	山口
〃	鶴田 忠嗣	(株)鶴松造園建設	佐賀
〃	永島 昌和	(有)桂植木	沖縄

事業企画部会			
区分	氏名	会社名	支部
部会長	正本 大	みずえ緑地(株)	広島
部会委員	風間 啓秀	日産緑化(株)	東京
〃	鈴木 一彦	(株)東松園	千葉
〃	内山 剛敏	内山緑地建設(株)	福岡

以上、事業委員会の活動紹介とさせて頂きます。

造園フェスティバル推進部会

部会長 内山 剛敏



造園フェスティバルは行政、市民や若年入職希望者等に、造園の技術と感性をアピールすることによって、

造園建設業の理解を深めることを開催目的とします。

昨年度は、第8回を迎え、10月12日～14日を中心全国73会場で開催されました。

全国の会場担当者の方々のアンケートを拝見すると、各地域のイベントと共に各会場で様々な工夫で造園建設業のPRをされています。

今後の課題として、イベントの内容マン

ネリ化、アンケートの内容、行政側の協力の対応策、マスコミへの対応策など、たくさんの課題がありますが、少しずつでも、改善努力し、来場者の増加を目指し、活動を推進してまいりたいと思います。

第9回全国造園フェスティバル2014は、10月11日～13日のコア日を中心開催を予定しております。

今年度も多くの皆様の参加、ご協力、

造園フェスティバル推進部会

区分	氏名	会社名	支部
部会長	内山 剛敏	内山緑地建設(株)	福岡
部会委員	岡田 茂樹	(湘南造園(株))	神奈川
〃	坂井 丈浩	イビデンジングリーンテック(株)	東京
〃	丸 健一	(住友林業緑化(株))	東京
〃	丸山 賢史	(株)日比谷アメニス	東京
〃	室橋 智	物林(株)	東京

ご支援をお願いいたします。

人材育成部会

部会長 風間 啓秀



●全国造園デザインコンクール、実施計画の立案

文部科学省、国土交通省、(公社)日本造園学会、(一社)ランドスケープコンサルタンツ協会、全国高等学校造園教育研究協議会、(一社)日本造園建設業協会の共催で実施。デザインコンクール、応募要項の立案から、審査、表彰までを担当。昭和49年から開催され、平成

26年度が第41回目に当たります。

若者の造園における技術力(デザイン・設計技術等)の向上を計るためのアピールとコンクールのPRの実施。全国造園デザインコンクールを通じ造園業界へより一層の若者の理解を深めより良い人材の確保に繋げていければ幸いです。

●地域リーダーズ、活動支援

造園建設業協会の次代を担う会員、若手・中堅の経営者、後継者、経営幹部の候補者が相互にコミュニケーションを深め全国各地の情報を共有し地域の活性化を目指すと共に造園建設業協会の全国的な活性化の推進、自主的な取り組みを基本とする活動の支援を行っています。

平成22年から始まり同年は主に活動

計画・ルール作り等を行い、平成23年度末に活動の目的、会の位置づけ等を定めた「ルールブック」をとりまとめ、原則年2回の勉強会とし平成25年度まで6回(東京3回、北海道、仙台、北九州)勉強会を行い全国の方々と交流を図り活動成果と共に地域の活性化に繋げ全国的な交流に広がってきております。

●造園CPD 単位取得促進企画

会員各社の、現場で中心となる立場の方のCPDポイント取得が難しい中総合評価による入札の条件にもCPDポイント取得が取り入れられて来ております。まず認定プログラム以外の登録はWEB上での自己登録が必要ですので、自己登録方法から始まり、年間50単位取得方法

のガイド作成、周知を行っております。

●職長教育の促進企画

現場における安全衛生教育推進に、職長・安全衛生責任者に対する職長教育が重要な課題となり、労働安全衛生法に基づく職長教育を実施するため、日造協内部に職長教育講師を昨年度より養成し、今年度より講習会を順次開催して行きます。

要望・提言部会

部会長 鈴木 一彦



日造協では、事業の重点実施方針として「日造協の資格制度の活用や造園力を発揮できる機会の創造・拡大に向けた要望・提言活動を本部・総支部・支部が一体となって組織的に展開する」と掲げ、要望提言活動を行って参りました。

平成26年度も引き続き、組織的な要望・提言活動の実施を検討し、「日造協の要望・提言活動の方針」に基づき定期的な要望・提言活動を行うよう、ご協力のほどよろしくお願い致します。

今年度に取り組む要望・提言活動の重点項目として

①国道の維持管理工事等の造園発注に関わる要望・提言活動

②自然環境共生工事に関わる要望・提言活動

本省宛：自然環境共生工事における造園工事の明確な位置づけ

地方環境事務所宛：自然環境共生工事

へ造園工事業の積極的な活用

③日造協資格制度の活用に関わる要望・提言活動

④労務費調査の適正化に関わる要望・提言活動

⑤災害に対する会員企業の保有する機材・資材の活用提言

⑥法定福利費等の確保に関する要望

要望・提言活動部会

区分	氏名	会社名	支部
部会長	鈴木 一彦	(株)東松園	千葉
部会委員	関根 武	内山緑地建設(株)	東京
〃	荻野 淳司	アゴラ造園(株)	東京
〃	佐々木創太	むつみ造園土木(株)	秋田
〃	武井 大佐	西武造園(株)	東京
〃	藤巻 偵司	藤造園建設(株)	神奈川
〃	坂井 丈浩	イビデンジングリーンテック(株)	東京

提言先からの回答(議事録)等を事務局専用ページに保管しておりますので、必要の際はぜひご活用ください。

また、今後要望活動等を行われましたら、本部まで情報提供をお願い致します。

『日造協ニュース』に関するアンケート

業界や技術、緑化行政に関する情報求める声多数

『広報日造協』から『日造協ニュース』にタイトルを変更し、全面カラー化などの紙面刷新を行った日造協の広報紙の現状を把握し、さらなる活用を図るために、『日造協ニュース』に関するアンケートを会員を対象に実施しました。その結果概要をご紹介いたします。

アンケート調査は、昨年カラー刷新し1年が経ち、どの様に意識しているかを明らかにし、さらに見やすい紙面作りを行なうため、全会員にアンケート調査を実施しました。

調査は、メールアンケート調査を3月28日から4月10日まで行い77件の回答を得ました。

次いで、FAXアンケート調査を5月15日から5月25日まで行い292件の回答を得て、合わせて369件の回答を得ました。

なお、集計結果は、数値の小数点以下第2位で四捨五入しているため、各回答の合計が100%に一致しないことがあります。

この結果、全体として9割以上の方

が「良く見ている」「たまに見ている」と回答。よく見るメニューは、「特集」と回答し、必要と思われる情報は、「業界」が300件を超え、「施工技術」「緑化行政」が200件、「資格」「安全」「協会活動」「支部活動」が100件を超えるました。

また、記述回答では、「カラーになって読みやすい」、「紙面版の発行願い（紙面版の方が親しみやすい・読みやすい・回覧しやすい）」「柔らかい内容を望む」「営業活動に使う為、内輪に偏らない事を望む」などが多くみられ、紙面刷新に伴うカラー化、一部PDF配信などの形態と内容に対する意見が得られました。

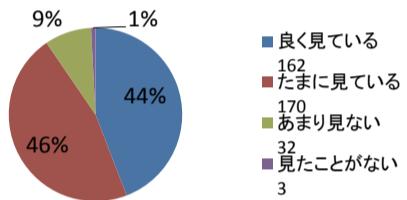
今後は、結果を取り入れた見やすい紙面づくりなど、より充実した広報活動に向けて検討を行ってまいります。

●全県で回答いただきました。

1. 会社所在地(都道府県)を教えてください。

2. 「日造協ニュース」を見ていますか？

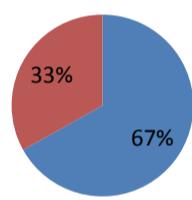
回答 367



●全体として 約91%の方が「良く見ている」「たまに見ている」を選択しており、広報として利用されています。

3. 「見ている」と答えた方へ、「日造協ニュース」紙面版と電子版が隔月で発行されているをご存知ですか？

回答 320

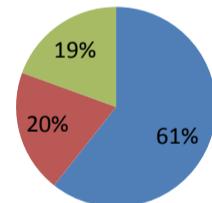


●知っている
214
●知らない
106

●見ていると答えた方の約67%の方が知っていましたが、33%の方は知りませんでした。

4. 「見ている」と答えた方へ、「日造協ニュース」の紙面版と電子版どちらをよく見ますか？

回答 221

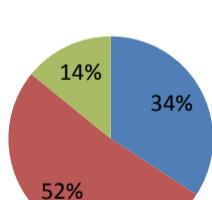


●紙面版
134
●電子版
44
●両方
43

●見ていると答えた方の 約61%の方が紙面版を選択され、電子版を選択した方は20%でした。
両方みているは19%でした。

5. 「見ている」と答えた方へ、「日造協ニュース」紙面がリニューアルされたことをご存知ですか？

回答 424

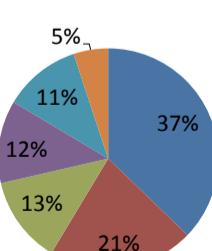


●知っている
145
●知らなかった
219
●気にしていない
60

●見ていると答えた方の約34%の方が知っていましたが、52%の方は知らなかった。
気にしない方含めると66%の方はリニューアルを知らなかった。

6. 「日造協ニュース」のよく見るメニューはどれですか？(複数選択可)

回答 766

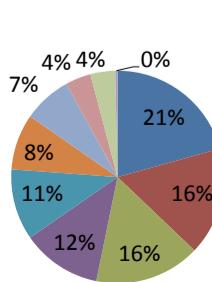


●特集記事
285
●樹林
164
●緑滴
98
●ふるさと自慢
93
●学会の目・眼・芽
87
●その他
39

●よく見るメニューは特集記事37%から学会の目・眼・芽11%です。

7. 「日造協ニュース」の紙面で必要と思われる情報はなんですか？(複数選択可)

回答 1,460



●今後必要な情報は「造園業界」の21%が最も多く、から 会員企業に関する 4%です。

学会の目・眼・芽 第60回

山岳地での植生復元活動を通じて感じること

(公社) 日本造園学会幹事・東京農業大学短期大学部環境緑地学科助教
下嶋 聖

北アルプス・雲ノ平における植生復元活動に携わっています。雲ノ平は、富山県・岐阜県・長野県の3県境の富山県側に位置し、到達するには徒歩で2日かかり、北アルプスの中でも最奥地にあります。主稜線の荒々しい地形とは対照的に、雲ノ平は20~10万年前の火山活動でできた溶岩台地であるため、なだらかな地形を有しています。9000年前のアカホヤ降灰により泥炭ができ、雪田草原が出現しました。これら特徴的な景観から、日本庭園やスイス庭園など庭園の地名がついており、訪れる者を楽しませてくれます。

日本最後の秘境とも言われた雲ノ平にも、登山ブームが押し寄せました。過去の空中写真を見ると、1940年代にはほとんどなかった人為的な裸地が1960年代より認められ、2000年代には登山道を中心に裸地が帶状に広がりました。9000年かけてできた土壌や高山植物は、わずか40年たらずで踏圧によって荒廃してしまいました。

本来の姿に戻すべく、6年前より現地の山小屋である雲ノ平山荘と協働し、林野庁・流域管理推進アクションプログラムとして実施しています。植生復元の工事を行うにあたり、①自然の摂理を読み取り元の姿に戻す、②景観を壊さない、③コストをかけない、④ひとを育てる、⑤持続可能な体制をつくる、⑥普及可能な方法論をつくる、以上6つの基本方針を掲げ、

取り組んでいます。

踏圧など人為的要因による登山道の荒廃は、全国の山岳地で問題となっています。公共事業として植生復元工事を行う際、自然に対峙する考え方の工事ではなく、自然の構造に逆らわない造園的アプローチが求められます。しかし、造園固有の技術的な要求は図面や特記仕様書に表現しにくく、発注者側である行政は敬遠しがちです。一方で、受注者となりえる造園業者は高い技術力を持っていたとしても、そもそもこうした山岳地における植生復元工事に対して入札資格を持っていなかったり、あるいは機会がなかったりと、接点が少ないと挙げられます。両者の課題点が解決されることにより、造園業(界)がもっと活躍できるよう期待したいと思います。



雲ノ平全景



施工風景

造園施工管理受験対策講習会を開催

日造協では、会員の技術力向上、経営力強化に役立てるようさまざまなジャンルの講習会、研修会を実施しており、各総支部・支部でも、積極的に多くの講習会を開催している。

特に主任技術者、管理技術者に必要な施工管理技術検定のうちで最難関となっている1級受験者を対象に「造園施工管理受験対策講習会」を福成敬三氏(株)フォーサイト代表取締役)を講師に迎え、全国5カ所で開催、合わせて55名が参加した。

講習会では、受験要領と対策に始まり、過去問題の解説含め、造園の歴史から、造園計画～設計、造園材料：植物・土壤・石材、施工：植栽基盤工・植栽工・移植

工、造園管理：植物管理、造園施設、測量、施工管理、法規などを日造協特製資料も使用して3日間学び、9月7日に行われる学科試験にそなえた。

講習会開催一覧

群馬県支部	8月4日(月)～8月6日(水)
中国総支部	8月18日(月)～8月20日(水)
近畿総支部	8月21日(木)～8月23日(土)
四国総支部	8月25日(月)～8月27日(水)
宮崎県支部	8月29日(金)～8月31日(日)



中国総支部



近畿総支部

訂正 前号8月号(485号)の2,3面で、総務委員会・岸省吾氏は岸省悟氏、事業委員会・丸山昌紀氏は丸山昌己氏の誤りでした。お詫びして訂正いたします。

ふる
と
自慢
福島県

寄
らん
し
よ、
来
らん
し
よ、
まわ
らん
し
よ



経験や感性を表現したい

坂口 加奈子
天龍造園建設株



飯坂温泉（福島市）へようこそ。この温泉は奥州3大名湯で、開湯は、日本武尊の東征にまで遡ると謂われます。

また、松尾芭蕉が旅の疲れを癒したといわれる「鯖湖湯」を始め共同浴場は9つ。「飯坂の湯」は疲労回復の効能があり、体内の疲労が溶けて体が軽くなります。

また、町のいたる所



町中のツツジの刈り込み

昨年カナダで開催されたモントリオール・モザイカルチャー世界博2013に浜松市出展作品制作チームの一員として、1ヶ月間現地で制作を行ってきました。モザイカルチャーとは「生きた芸術作品」と言われ、さまざまな造形を植物で表現したものです。カナダの作品はとても芸術性が高く、表現力の豊かさを現地で実感してきました。また現地には女性の現場監督や作業員が多く、彼女たちのパワフルで、本当に楽しそうに仕事をしていた姿は、男性の多い現場に慣れている私にとってとても刺激になりました。

イベントは世界博であったため、スペイン・ドイツ・アメリカ・トルコ・中国・韓国などの国々の人と交流することが出来ました。各国の設計・造園関係の方とお会いでき、かつそれぞれの国の仕事の手法や取り組み方などを見る事が出来たのは貴重な経験になりました。

◆
私は現在浜松市にある静岡県営浜名湖ガーデンパークで指定管理

にお休み処、足湯、手湯があり癒しの旅が味わえます。

◆
「飯坂」は坂が多い町で坂にもそれぞれ呼び名が付いていて「はらへり坂」は急な坂です。

その坂を上ると確かに小腹がすいてきます。そこでお奨めなのが「円盤餃子」カリカリの皮と中は白菜等々でしつとりの味わいです。

そして、米どころの福島の白米には「ラジウム玉子」ゼリー状の白身とクリーム状の黄身が特徴で滋養の高い栄養食品です。
食後のデザートには果物です。飯坂温泉から西の方へ「フルーツライン」の道路が走り、4月になると桃、ナシ、リンゴ、サクランボ、ブドウ



お休み処④と公衆浴場①②③



飯坂けんかまつり

ています。

◆
そして、けんか祭が終ると祭りの熱いエネルギーを鎮めるかのように秋が一気に深まります。

深まりゆく秋の旅は「飯坂温泉」へ。お湯よし、酒よし、人よし、何よりも自



本3大けんかまつりの一つで、10月第1土曜日は湯の町が祭一色に染められます。

いつまでも祭が続くように6台の太鼓屋台が激しくぶつかりあいながら神輿の宮入りを阻みます。太鼓の調べは京都祇園囃の流れを汲み、300年の伝統を誇っ

ています。

中嶋 都（福島県支部事務局長）

一日も早い事故収束と一人でも多くの訪問を願って

こんな風にふるさとの風にふれる事ができる幸せを感じて…

この度の「ふるさと自慢」で再度ふるさとを見直すことができました。

帰還困難区域でいつふるさとに戻れるかわからない県の状況にあって、こんな風にふるさとの風にふれる事ができる幸せを感じました。

一日も早い原発事故の収束を願うばかりです。

福島県の魅力と復興へ取り組む姿を

全国に発信するため、東北・福島応援特別大会のB-1グランプリ郡山（<http://b-1koriyama.com/>）を10/17・18日開催や来年4/1～6/30に「福が満開 福のしま」（<http://www.tif.ne.jp/dc/>）をキヤチフレーズにディスティネーションキャンペーンが始まります。

一人でも多くの方々に訪問していただくことを願っています。 中嶋 都

事務局の動き

【8月】

- 1(金)・国際委員会
 - ・技術委員会（調査・開発部会）
- 5(火)・総務委員会（広報活動部会）
- 6(水)・技術委員会（技能五輪部会）
 - ・日本造園建設業厚生年金基金理事会・代議員会議
- 7(木)・運営会議
- 8(金)・事業委員会
 - ・事業委員会（事業企画部会）
- 26(火)・総務委員会（総務企画部会）
- 29(金)・造園・環境緑化産業振興会事務局会議

【9月】

- 1(月)・全国労働衛生週間準備期間 ~9/30
- 2(火)・アクションプログラム推進等特別委員会
- 4(木)・国交省公園緑地・景観課との意見交換会
 - ・運営会議
- 5(金)・総務委員会（広報活動部会）
- 9(火)・技術委員会

11(木)・総務委員会

15(月)・AIPH総会

~9/22

21(日)・植栽基盤診断士認定試験（学科試験）

24(木)・造園・環境緑化産業振興会事務局会議

・日本造園建設厚生年金基金代議員会

26(金)・植栽基盤診断士認定委員会（試験部会）

30(火)・資格制度委員会